

六割を占めてある紛議の二十一件並に工場閉鎖五件は即
 更に我々は組合運動自体から之を觀する時本年の争議は殆
 んど小せり合の觀があつた。之れ即ち我等の組合が大工場中
 心の勢力を保持して居らなからである。
 我等は今後大なる組織力を以つて常に大工場を足場とし
 て闘はねばならぬ。然して其の根據地を大工場に築かね
 ばならぬとを切実に感ずる所である。
 本年の全争議中に於て特だ我等が名譽ある報告を諸君に
 告ぐる幸を得たる争議二件に就て一言する。
 第一は七月四日より八月三十一日に亘る実用自動車会社
 の争議である。松岡紙及声明書等にて報告せる如く之は
 日本に於ける雇轉手労働者の最初の争議であつて、資水家

の毒手から救はれたる新労働問題であつた。戦いは激烈
 を極め血未だに存す激戦を以てした。遂に破れた。然し之は
 開拓運動としての價値の上に何らの悪影響もあらず。まゝの
 ことである。只今後自衛労働者の労働條件確立と共に氣心の
 上の成功を期せねばならぬ。
 第二反第三は、野田橋油会社と争議である。前者とは
 失事情異り就等の組織力勝るか資本の累産勝るか決戦で
 又つた野田油社の好算たる小多事件も、或は同じ意味に歸
 せらるる三運輸会社の半權的争議も、遂に野田支部の
 大なる結束力と莫大なる争議基金の前には、其の業は消滅し
 たのである。さうして遂に戦わずして勝つたのである。
 強前章に述べたる如く小争議小競合的闘争には、尚足らな
 る現狀は甚だ遺憾ではあるが歴史は我々の一足履の石と
 なり、我等はより前進して其本屋に突撃するの用意と修養と